

大会時・コロナ禍までの取組

- ・2019年：業界初となるリードタイムの変更 (N+1→N+2)
- ・2020年3月：個別コンサルティングを活用し、大会情報をもとに取引先への影響度の集計・クラス分けを実施
- ・2021年3月：取引先への協力依頼文書を検討・作成
- ・2021年7月：取引先に「大会期間中の大規模規制による荷物の遅延について」の文書を発信

人の流れ

きっかけ

以前より実施

オリパラ

コロナ禍

- テレワーク・・・従前より奨励。実施率8割を目標として実施
テレマーケティングの委託先での取組も推進
- オフピーク通勤
- 会議等のオンライン化
- 有給休暇の計画的な取得の促進・実施・・・従前より推進

物の流れ

きっかけ

以前より実施

オリパラ

コロナ禍

- 影響度をクラス分けし、顧客の配送ステータスを確認
 - ・大会時に想定される配送への影響の度合いを、エリアや時間帯でポイント化し、集計してクラス分け
 - ・クラス分け毎に、準備中・配達中・出荷完了のステータスを毎日確認
- リードタイムの延長
- 一時保管場所を活用したクロスドッグ配送
 - ・既存拠点の他に、一時保管場所を設けて効率的に配送。
区間当たりの配送距離・時間の短縮にもつながっている。

取組ポイント

- 従前より会社として、積極的なテレワーク実施や、休暇の計画的な取得を奨励
- 外部委託先でもテレワークができるよう環境を整備
 - ※ テレマーケティング業界のモデルケースとなった

取組ポイント

- 従前より業務量軽減に向けた取組を継続実施
- 配送委託先と連携し、取組を検討・実施

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

- テレワーク
- オフピーク通勤（時差Biz）
- 会議等のオンライン化
- 有給休暇の計画的な取得の促進・実施

物の流れ

継続して取組を実施予定

- リードタイムの延長
 - ・今後は拘束時間の削減を検討
- クロスドッグ配送の拡充
 - ・一時保管場所を全国各地に拡充
 - ・ハブ&スポーク方式（※）による配送時間の短縮

（※）大規模拠点（ハブ）に貨物を集中させ、そこから各拠点（スポーク）に分散させる輸送方式のこと

【東京2020大会を振り返って】

- ・影響度のクラス分けは初の試みであり、2年間の準備期間と個別コンサルティングでの提供データが役立った。
- ・2020TDM推進プロジェクトから提供された情報（特に、大会時の遅延等を想定した所要時間・経路探索システム）は情報が非常に細かく、使い勝手もよかった。